

## 元「しらせ」乗員川崎地区募集相談員会会長・小川氏「防衛大臣感謝状」受賞



砕氷艦「しらせ」乗員時の小川氏



小野寺防衛大臣と  
受賞した小川氏(左)



小野寺防衛大臣から表彰を受ける  
相談員小川祐司氏(右)

神奈川地方協力本部川崎地区自衛官募集相談員会会長・小川 祐司(おがわ ゆうじ)氏は、自衛官募集功勞により「平成29年度防衛大臣感謝状」を受賞された。

小川会長は、昭和63年横須賀教育隊(第261期)に入隊し、第1護衛隊群第43護衛隊護衛艦「はるゆき」その後、砕氷艦「しらせ」乗員として第31次南極地域観測協力行動に参加した。家業を継ぐため、任期満了で退職したが、平成9年に自衛官募集相談員として委嘱されてからは、地域住民や企業、団体等に対して自衛隊への理解促進に努めている。特に、川崎出張所のイベント参加や募集広報活動を積極的に支援し、昨年10月に実施された「第44回川崎みなと祭り」では、関係各所を奔走し川崎港に初めとなる護衛艦入港に尽力した。また、自らの海上自衛隊での勤務経験を活かして講演を行うなど自衛官の募集広報と防衛基盤の育成に多大な貢献をしている。

今回は、神奈川地方協力本部長表彰、横須賀地方総監表彰、東部方面総監表彰、海上幕僚長表彰に続く5度目の感謝状受賞。小野寺五典防衛大臣は「ありがとうございます。これからもよろしくお願いします」と話し、受賞者席の小川会長に感謝状を手渡した。

小川会長は「川崎市は長く革新市政が続く、自分が現職の頃は自衛隊を受け入れて貰える状態ではありませんでした。しかし、現在の川崎市は自衛隊と積極的に係る姿勢へと変わり、市民の自衛隊に対する意識も変わってきていると実感しています。多くの同期が現在も国防という最前線で活躍しています。これからも同期に負けないよう隊員の募集・自衛隊の認知度の向上に努めていきたい」と意気込みを語った。

川崎出張所は、小川会長はとて頼もしい存在と話し「基地や駐屯地のない川崎地区において自衛隊の認知度向上と募集に貢献して頂いている小川会長のこれまでの功績に感謝するとともに、今後も海上自衛官としての経験と地域のつながりを生かした募集広報活動の指導をお願いしたい」とつづける。

## 空自三沢基地より臨時勤務中の女性自衛官との懇談で入隊へ前向きに

神奈川地方協力本部厚木募集案内所(所長 岡山一海尉)は、1月24日(水)当事務所内にて受験・入隊予定者の不安を解消し、入隊意欲を向上させることを目的として、神奈川地本募集課に臨時勤務中の女性自衛官との懇談会を実施し、大学4年の女子学生3名が参加した。

空自三沢基地三沢管制隊より臨時勤務中の野田 沙智子士長は、入隊3年目で管制官と航空機乗員の交信に使われる無線機の保守整備を行う地上無線整備員を務める。神奈川地本では、説明会やイベント、市街地での募集広報の他、入隊試験や募集対象者向けイベントの企画業務補助を行っている。

受験予定の1名と今春入隊予定の2名は、入隊してすぐの教育訓練の内容や女性隊員はどのような人が多いのか、また休暇の過ごし方などについて質問し、野田士長は丁寧に答えていた。また、管制官から感謝の言葉をかけてもらった時は、この仕事をしていて良かったと嬉しくなる事などを聞いた空自入隊予定者は「これから自衛隊で仕事をすると実感が出てきました。楽しみです」と話し、話が進むにつれて緊張も解け、趣味や恋愛などの話題も上がり、懇談は終始和やかな雰囲気だった。参加者は「女性自衛官の方が生き生きといて、今の生活が充実しているのが分かります」などと感想を述べ、入隊に向けてより意欲が湧いた様子だった。

野田士長は「入隊予定者と話すのは、とても新鮮な気持ちになった。自分も入隊するまでは、相談できる人もおらず不安でいっぱいだった。機会を頂けたからには、受験・入隊予定者だけでなく、地本の力となるよう様々な事に取組んでいきたい」と話していた。

厚木募集案内所は「女性の入隊予定者が不安なく入隊できるように、自衛隊は女性が活躍できる組織であることを様々なかたちで伝えていきたい」とつづける。



募集広報業務にあたる野田士長



神奈川地に臨時勤務中の野田士長



女性自衛官(中央)との懇談の様子